

変身!!

春は、別れがあり出会いがあり、
木々は芽吹き花が咲き、動物たちが動き出し、
環境や自然の変化が感じられる季節です。
そこで今回は、「変身」をテーマに本を集めてみました。



変身のロマン
滋澤龍彦編 立風書房 1990

古来より、人が動物や植物に姿を変える変身譚は数多く存在します。たとえば、危険や禁忌に不用意に近づき望まずして変身させられてしまうもの、身の危険から逃れるために望んで姿を変えるもの、読み手が納得するかなどお構いなしに突然姿が変わってしまうもの等、いくつものパターンがあります。幼い頃に読んだ昔話など、思い当たる方も多いのではないのでしょうか。

本書は、幻想小説アンソロジー『暗黒のメルヘン』（立風書房 1990）の続編のような作品集で、編者による論考「メタモルフォーシス考」と花田清輝によるエッセー「変形譚」の2編で挟み込むように、編者の選んだ13編の作品（長編は抄録）を紹介しています。恐怖に襲われると周囲の物に溶け込むことができる男の話、動物を糧にする蘭科植物をそれと知らずに手に入れてしまった男の話、詩家として名を成そうとするも大成せず、発狂して虎になった男の話、その他、オウイデウス「美少年ナルキッス」とエゴン、アンデルセン「野の白鳥」、泉鏡花「高野聖」、太宰治「魚服記」など、物語は古今東西、多岐に渡っています。
非日常的な現象を扱った作品の数々をお楽しみください。

脱皮コレクション
岡島秀治監修 新開孝、関慎太郎写真 日本文芸社 2011

皆さんは、生きものが脱皮する瞬間を見たこ

とがありますか？ 私たちの身近にいる生きものの多くが脱皮をしています。蝶や蝉の羽化などはよく知られていますが、その場面に立ち会うことは、そうあるものではありません。

本書は、まさにその瞬間ばかりを集めた写真集です。数多くの写真には解説がそえられ、生きものが脱皮をする理由や観察の仕方なども紹介されています。

古い皮膚から顔を出すヘビの愛らしい表情。細く長い足を苦勞して引き抜くコガネグモ。4段階の脱皮を経て劇的に姿を変えるアゲハ。昆虫メラマン・新開孝と爬虫類、両生類担当の自然写真家・関慎太郎による貴重な写真の数々は、時に美しく、時にユニークです。個々の生きものの生態についても、全て脱皮という視点から語られているめずらしい一冊です。人目に触れることのない神秘的な瞬間をあなたもぜひごぞいてみませんか？

キルトをはいた外交官
大塚清一郎著 ランダムハウス講談社 2008

ある時はメキシカン・バンドで演奏し、ある時はキルトをはいてニューヨークの五番街でバグパイプの吹奏行進し、またある時はスウェーデンの国王やスリランカの大統領の前でその国の愛唱歌を原語で歌う。そんな著者は、色々なものに変身する型破りな外交官です。

無表情、動きバチ、退屈な集団、という外国から見た日本人のイメージを覆すような、ユーモア溢れる外交官である著者は、外国語が飛び交う国際会議の議長も、ニューヨークやロンドンで雲間を和らげて、そつなくこなしてきました。たとえば、「笑わぬ首相」で有名なプレミアム元首

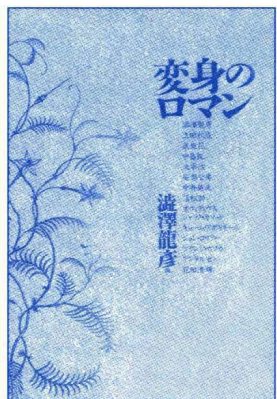
相を晩餐会に招いた時には、「アライウィーイ」（タイ式なぞなぞ）や「タローク」（タイのジョーク）で攻めて、最後には上機嫌でお帰りいただくことに成功しました。
「外交とは、いざという時に頼りになる信頼できる人と人とのつながりを作ることである」をモットーとし、スコットランド、タイ、アメリカ、スリランカ、スウェーデン等、様々な国で外交官を勤めた著書の自伝的エッセイです。

コスプレする社会
サブカルチャーの身体文化
成実弘至編 せりか書房 2009

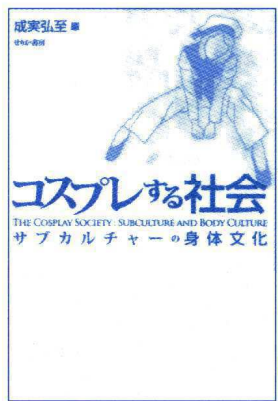
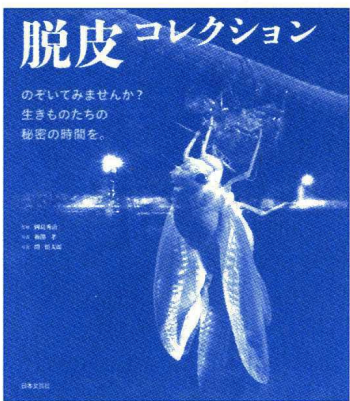
「コスプレ」という言葉は私たちの生活の中に急速に広まりつつありますが、その実態となると興味がない人にはまだ知られていないのが現状かもしれません。

本書では、社会からはみ出しがちで、あまり語られてこなかった独自の身体文化「コスプレ」、女装、タトゥー、改造制服、ストリートスタイルなどについて各執筆者が考察していきます。個々の事象をなるべく現場に近いところから見ていくことにこだわっている本書は、インタビューやフィールドワーク、当事者である執筆者の見解など、生の声が多く盛り込まれています。

女装者は性同一性障害や性転換手術についてどう考えているか、コスプレ会場やタトゥーコンベンション（タトゥー愛好者の集まり）の内側ではどんなことが行われているのかなど、外側からは知りえないディープな世界の内側を垣間見せてくれます。人々は装うことで、何を求め、感じているのか。そこでは自己をめぐる



重い問いかけがなされているのではないかと編者は考えます。
9章からなり、各章の内容は独立しているもので、興味を持った章からページをめくって、未知の世界に触れてみてはいかがでしょうか。



子どもたちが大好きな「変身ヒーロー」。その第1号は？

4 テレビで子どもたちを魅了する「変身ヒーロー」たち。月光仮面やスーパーマン、ウルトラマンなど、洋の東西を問わず「変身して悪を懲らしめる」タイプのヒーローは古くから存在していましたが、「変身」そのものを重視したという点では、起源は「仮面ライダー」、それもライダー2号こと「文字単人」にあるようです。「変身ブームを巻き起こし、子供達だけではなく世間一般にまで仮面ライダーというキャラクターを印象つけたのは、佐々木の演じた一文字隼人のポーズであり、「元祖・変身」というのがふさわしい。「僕らのスーパーヒーロー伝説」堤哲也編 扶桑社 2002

さて、変身シーンはこの後さまさまなヒーローに受け継がれていきます。そこに共通するのは「変身はそれ自体が一つの独立した魅力ある出来事として扱われている」という点であり、「さらにいえば、変身したからどうなるというよりも、変身することそれ自体がカッコイイのであり、それが快感を与える見せ場になっているのである」として、ヒーローの変身シーンに「純粋なヘンシン願望」を見る意見もあります。「変身願望」宮原浩二郎著 筑摩書房 1999

子どもだけでなく大人も変身ヒーロー・ヒロインに惹かれる理由は、こうした変身願望にあるのかもしれない。

